



【学校教育目標】 仲間とともに自ら未来を拓こうとする子どもの育成



言葉の力を高めよう!～音読チャレンジ～

6月1日からスタートした「音読暗唱チャレンジ」。すでに102人の子どもたちが校長室に来て、暗唱チャレンジに取り組み、合格しました。しっかり音読練習に取り組んだ成果を発揮しています。

さて、音読には、どのような効果があるのでしょうか。数々の著書で発信されている、脳科学者 篠原 菊紀先生は、次のように、言われています。



音読は脳の活性化に大きく貢献する!

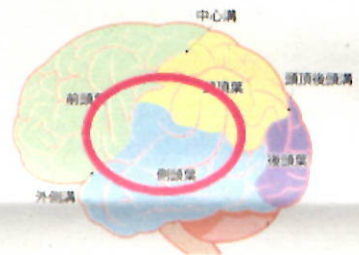
①前頭前野に効く!～初めて読む文章を音読しているとき～

初めて読む文章や、難しい文章など、慣れない音読をしているとき、脳の「前頭前野」の活動が高まります。「前頭前野」とは知的活動の中枢で、短期記憶を保持する力にも関係しています。この「前頭前野」を鍛えることで、ワーキングメモリー（知識や情報を関連付けながら、考えや結論を導き出す力）の発達に効果的です。



②大脳辺縁系に効く!～読み慣れた文章を音読しているとき～

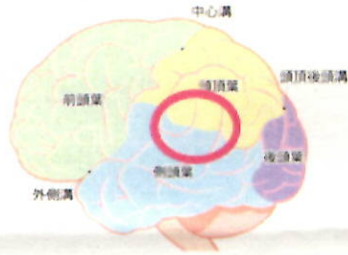
何度も読んだ文章を心地よく音読しているとき、すなわち手慣れた音読をしているときは、残念ながら、前頭前野の活動は、ほぼ消失してしまいます。そのかわりに、「大脳辺縁系」の活動が高まってきます。「大脳辺縁系」の活性は、心を養ったり、感情表出のメカニズムを鍛えたりするのに効果的。表現力や感情の理解力などを高めます。



校長先生、聞いてください。
りす、りす、こりす 北原白秋
りす、りす、こりす
ちよろ、ちよろ、こりす
あんずの実があまいぞ…

③側頭頭頂接合部(角回)に効く！～内容に想いをはせて音読しているとき～

さらに段階を進み、相手の気持ちを想像したり、文章の裏側にある世界を頭に思い浮かべたりしながら音読しているとき、「側頭頭頂接合部(角回)」の活動が高まります。文に書かれていることの向こう側にある、見えないものを見ようとすることは、「側頭頭頂接合部(角回)」を刺激し、想像力を鍛えるための根本活動となります。



お家でも、お子さんが音読に取り組んでいる時、都合があれば、ぜひ聞いてあげてください。

そして、その読み物について親子で話し合うことも、心を耕し、言葉の力を育てることにもつながると思います。



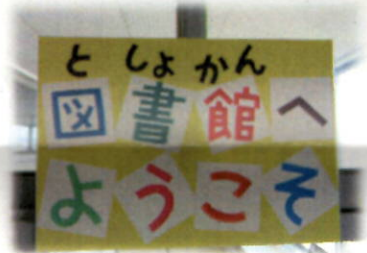
本に親しむ～読み聞かせ～

図書館補助員の藤井貴子先生が昼休憩に、読み聞かせを行っています。子どもたちも「どんなお話かな。」と興味を持って、本の世界に浸ることができます。

読み聞かせを通して、子どもたちは「文字」「声」「絵」という3つの情報を多角的に取り込むこととなります。

脳科学の分野でも、人間の脳は、さまざまな情報が重なることによって、記憶に強く残り、考える材料を多く吸収することができると言われています。

これからも、折に触れて、読み聞かせの機会を大事にしていきたいと考えています。



教育実習生の紹介



はじめまして。三島綾華です。御幸小学校で実地体験、教育実習をさせていただきます。明るく元気ががんばります。校内で見かけたら、声をかけてください。よろしくお願いいたします。